

スポットライトと影

この課題の目的は、学問分野が知識形成においてどのような役割を果たしているのかを理解することである。さらに重要なのは、自分が専攻を選ぶことによって、自分自身の思考がどのように形作られていくのかを理解することである。学問分野は、あるものをよりはっきりと照らし出す一方で（スポットライト）、別の洞察を影に置く。

この課題には、個人課題とグループ課題の二つの構成要素がある。それぞれは独立して評価される。しかし、グループ課題で成功できるかどうかは、個人課題にどれだけ真摯に取り組むかに大きく依存する。個人課題に真摯に取り組めば、グループ課題もうまくいく可能性が高い。逆に、個人課題に中途半端な姿勢で取り組めば、グループ課題でもほぼ確実に失敗するだろう。

この課題では、まずグループごとに、学期全体を通して扱うテーマを選ぶ。その後、そのテーマを異なる学問分野の視点から検討し、それぞれの学問分野がそのテーマのどの側面を照らし出すのか、また逆に、どの側面を見落とし、無視し、あるいは歪めているのかを考察する。

この課題は五つの段階から成る：

- 第一週に、グループでテーマを選ぶ。
- 同じく第一週に、検討対象となる四つの学問分野を選ぶ。
- 各学問分野を扱う前に、各学生は個人で、その分野から自分たちのテーマに関する学術論文を一つ探して読み、いくつかの問いに答える短いエッセイを書く（詳細は下記）。
- 各学問分野を扱う週には、グループで論文について意見交換を行い、指定された問いに基づいてグループレポートを作成する（詳細は下記）。
- 各学生は学期末に、授業全体を通して得た洞察をまとめた最終レポートを書く。

1. テーマを選ぶ

テーマを選ぶ際には、狭いものより広いもののほうが望ましい。テーマは、選んだ四つの学問分野すべてと意味のある形で結びつかなければならない。もしテーマがごく限られた範囲の学問分野にしか関係しないものであれば（たとえば「量子場理論」や「行動遺伝学」など）、適切なテーマではない可能性が高い。

同時に、「人生」や「未来」のように極端に曖昧なテーマも避けること。そうしたテーマは捉えどころがなく、実質的な探究を行うことが難しくなる。

つまり、テーマは、多くの学問分野が少なくとも何かしら語れる程度には広く、しかし同時に、そのテーマについて意味のあることを言える程度には限定され、識別可能なものでなければならない。

そして何より重要なのは、そのテーマが自分にとって興味深いものであることだ。自分が本当にもっと知りたいと思えるテーマを選ぶこと。

教員は第一週にテーマ選びを支援し、最終的にはテーマを承認する必要がある。

2. 学問分野を選ぶ

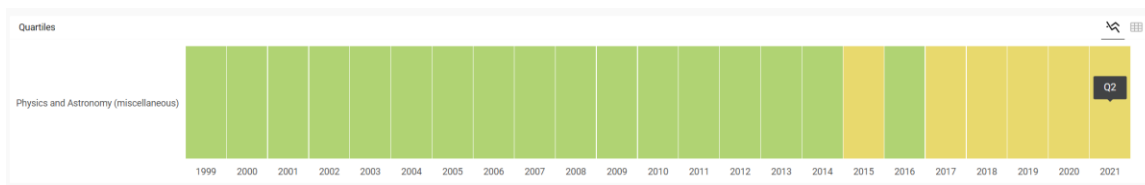
理想的には、テーマは幅広い学問分野と結びつけられるものであるべきだが、必ずしもそうとは限らない。四つの学問分野を選ぶ際には、それらが自分たちのテーマに適合しているかどうかをよく考えること。

3. 個人課題

a. 論文を選ぶ

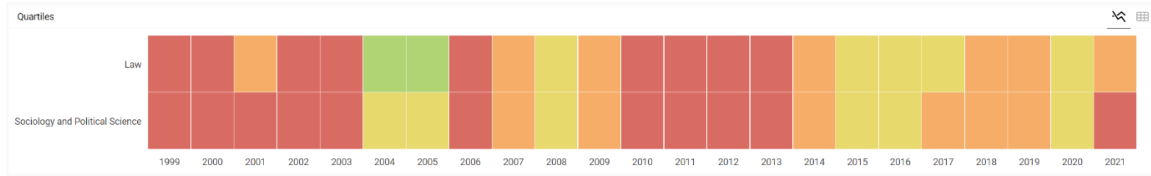
論文を選ぶ際には、いくつか注意すべき点がある：

- 論文を探す場所はいくつかある。Google Scholar は良い出発点である。
- 選ぶ論文は、その学問分野を適切に代表しているものでなければならない。つまり、その分野で高く評価されている学術誌に掲載された論文を選ぶ必要がある。これを確認するためには、論文タイトルではなく雑誌名を Scimago に入力すること。
- もし雑誌が Scimago に存在しないなら、その雑誌はおそらく適切ではないので、別の論文を探すこと。
- 雑誌が Scimago に存在する場合は、タイトルをクリックし、以下のような画像が表示されるまで下へスクロールすること：



- まず、その雑誌が適切な分野に分類されているか確認すること。たとえば、上の画像の雑誌は“Physics and Astronomy”に分類されている。もしその週の学問分野が Public Policy なら、その論文が掲載されている雑誌は“Public Administration”のような分野に分類されていないなければならない。もし、扱うべき学問分野と密接に関係する分野に分類されていないなら、新しい論文を探す必要がある。
- 最新年度の色付きバー（上の画像では“2021”上の黄色いバー）にカーソルを合わせると、その雑誌の Quartile を確認できる。Q1（緑）または Q2（黄）の雑誌は良い雑誌である。Q3（橙）や Q4（赤）の雑誌は適切ではない。Q1 または Q2 の雑誌に掲載された論文のみを使用すること。
- 雑誌によっては複数分野に分類されていることがある（下図参照）。その場合、分野によって Quartile が異なることがある。自分が扱う学問分野において、そ

の雑誌が Q1 または Q2 でなければならない。別分野でどれほど高く評価されていても、自分が扱う分野で Q1 または Q2 でなければ、その論文は使用してはならない。



- 利用可能な最新年度において Q1 または Q2 の雑誌のみを使用するのが望ましい。過去には Q1 や Q2 であっても、現在そうでないなら、別の論文を探すこと。

b. 課題そのもの

課題は、論文についての短いエッセイ（250～300 語）を書くことであり、以下の二つの問いに答えなければならない：

- この論文は、自分たちのテーマについて何を照らし出しているか？ 論文中の具体例を一つ挙げること。
- この学問分野によるテーマへの接近の仕方によって、どのような側面が見落とされ、無視され、あるいは歪められているように思われるか？

エッセイは、おおよそ半分ずつをそれぞれの問いに割くこと。一方の問いに偏りすぎたエッセイは、それに応じて低く評価される。

250～300 語という語数制限は厳格である。250 語未満または 300 語超のエッセイは低く評価される。

この課題における AI の使用は厳しく制限されている。すべての課題は授業の AI 使用ポリシーに従わなければならない。各提出物の末尾には“AI Use Disclosure Statement”を含めなければならない。

これらのエッセイは、その学問分野を扱う週より前に提出しなければならない。

各提出物には以下を含めること：

- 以下の形式による論文の書誌情報：

Author Last Name, Author First Name. Year of Publication. Name of Article.

Name of Journal, Issue Number: Page Range.

例：

Santoso, Siti. 2022. A Professional's Guide to Citing Articles. Journal of Citation Studies, 22(1): pp. 68–89.

- その雑誌が関連分野で Q1 または Q2 であることを示す Scimago のスクリーンショット。
- AI Use Disclosure Statement (AI を使用しなかった場合でも、「使用していない」と明記した AI Use Disclosure Statement を含めること)。

4. グループ課題

各学問分野を扱う週には、グループごとに以下のワークシートを完成させること。

学問分野： _____

テーマ： _____

1. 私たちが読んだ論文は、どのような方法や証拠を用いていたか？

(当てはまるものすべてにチェックし、簡単に説明すること)

実験

調査／インタビュー

エスノグラフィ的フィールドワーク

観察研究

データ／統計分析

文書・資料調査

文献レビュー

テキスト分析

理論分析／論証

論理的／数学的論証

創作実践／芸術活動

その他 _____

2. それらの論文は、どのような問いや問題に焦点を当てていたか？

3. その学問分野がテーマを見る際、どのような前提や価値観が影響しているように思われたか？

4. この学問分野は、テーマのどの側面をより可視化したか？

5. どのような側面を見落とし、無視し、あるいは歪めていたか？

6. この学問分野の視点から得られた洞察を一つ挙げること：

7. この学問分野では理解できないと思われるテーマの側面を一つ挙げること：

この課題は手書きで完成させなければならない。AIの使用は一切禁止である。
どのような形であれAIを使用した場合、その課題の成績は0点となる。

5. 最終レポート

各学生は、学期末に800～1000語のレポートを書くこと。

このエッセイは、授業全体を通して得られた洞察を統合する機会として捉えるべきであり、以下の問いに答えなければならない：

- 異なる学問的視点からテーマを見ることで、自分の理解はどのように変化したか？
- どの学問分野が、新しい、あるいは意外な視点を与えてくれたか？それは何だったか？
- どの学問分野に限界を感じたか？あるいは、何か重要なものが抜け落ちているように感じたか？
- これらは、異なる学問分野がどのように問いを立て、世界を理解しようとしているかについて、何を示していると思うか？

エッセイでは、この四つすべての問いに答えなければならない。特にQ4がもっとも重要であり、このエッセイの中心部分となる。

この課題におけるAIの使用は厳しく制限されている（授業のAI使用ポリシーを参照）。エッセイ末尾にはAI Use Disclosure Statementを含めなければならない。